熱 高 ラボ

対象生徒：１年生全員
指導教員：１年部教員

地域連携実施協力者
熱海、伊東等の商業施設、役所等

取り組みの概要

熱高ラボは、１年次の総合的な探求の時間として本校に設けられている「桃陵ゼミ」の中で実施される活動である。今日、これからの時代を担う生徒には自ら課題を設定し、それを解決する能力が必要とされている。

本校の現状として、卒業生の多くが将来地元に残るかいずれは戻ってきている。地域社会の中での活躍を想定した場合、地域の現状を知ることが重要である。たとえ地元で働くことが無かったとしても、人口減少や高齢化という状態にある熱海について学ぶことは、日本の未来を考える上でも大切である。また、２年次に行われる「熱海ラボ」では、地域とより深くつながり地域で活躍する人材(熱海の地元企業の方々)と協働して、自分たちで考えをまとめ、解決することが目的となる。

そこで、１年次の「熱高ラボ」では、地域の中に潜む問題や課題を発見するために、どのように情報を収集すべきかということや、収集した情報をどのようにまとめアウトプットするのかということに関する基本的な能力を育成することを目的としている。

今年度は、生徒の関心を調査した上で、大テーマとして「観光」「温泉」「土産」「歴史」「ドラマ」「周辺地区」の６つを設定し、生徒が興味関心のあるテーマを選択した。その後、似たようなことに興味関心を持つ生徒同士で４～６人のグループになるよう調整した。大テーマ内の各グループでは、自分たちが調べたいテーマを決めて調べ学習を行うことで、そのことに関する課題とその解決策を見出し、発表することを到達目標とした。それにあたり、２度のフィールドワークを実施し、必要な情報を自分たちで集めることとした。それに際し、地域の企業や商店、商業施設にご協力いただく必要があるグループも複数存在したが、事前のアポイントメントや交渉、情報収集の手段についても、生徒自身で行うこととし、あくまで教員は生徒が行動する前の確認に留めることとした。

最終的なアウトプットの形として、各グループで収集した情報から導き出した問題や課題とその解決策をまとめ、ワールドカフェ形式で発表することとしている。

この活動全体を通して、問題や課題の発見から情報収集、それらをまとめ解決策を導き出し発表するという一連の過程について、生徒が主体的に取り組むことができるようになることを目指している。

取り組んだこと

6/25(木)　13:20～14:50　①オリエンテーション

中学校での総合的な学習の時間で何に取り組んだか振り返った上で、教員が作った熱海の文化、歴史に関するワークシートを用いて、熱海に関する基礎知識を身に付けた。その上で、自分が調べてみたいテーマを考えさせた。

ここで出た各自のテーマ案をもとに総合的な探究の時間の教科委員で話し合った結果、今年度の探究テーマのカテゴリを「観光」「温泉」「土産」「歴史」「ドラマ」「周辺地区」の６つに分けることとなった。

【オリエンテーションの様子】

7/2(木) 13:20～14:00　②グループ分け

上の６つのカテゴリごとに分かれ、興味の対象が近い者、仲が良いもの同士でグループを組んだ。グループが決まったら、より細かいテーマ設定をするよう指示した。

7/9(木) 13:20～14:00　③テーマ設定

班ごとに、細かいテーマ設定をした。各班のテーマは、下の通りである。

班番号	カテゴリ	テーマ
1班	周辺地区	熱海と沼津　若者の人気の差
2班	観光	10代女子が日帰り旅行で回れるインスタ映えスポット巡り
3班	歴史	熱海温泉の歴史
4班	観光	熱海市内のマニアックな海産物
5班	歴史	こがし祭りの食べ物・楽しさ
6班	観光	熱海の海の魚について
7班	観光	東京から来た若いカップル向けのお泊りデートプラン
8班	温泉	熱海の温泉に来た有名芸能人について
9班	温泉	温泉の設備&おもてなし
10班	ドラマ	なぜ熱海が選ばれたのか？～熱海市が舞台となったドラマやアニメの調査～
11班	土産	熱海のプリンと沼津のプリンの比較～地域活性化のアイデア～
12班	土産	映え映えお土産(食べ物)
13班	土産	かわいいスイーツ～熱海のかわいいスイーツ特集～

9/17(木) 11/5(木)、11/12(木)13:20～14:00　④⑤⑥フィールドワーク準備

今後の準備を①テーマ決定→②発表資料 構成決定→③フィールドワーク行き先決定→④発表資料作成→⑤発表準備→⑥報告資料作成、の順に行うよう指示した。

11/26(木) 13:20～14:00　⑦フィールドワーク　アポ取り

今後のフィールドワークに備え、アポ取りを実施した。慣れない企業への電話で、何を伝えればよいか分からず苦労する者が多く、良い体験となった。

12/10(木) 13:20～14:50、12/22(火) 10:00～12:00　⑧⑨フィールドワーク

各班が決めた行先へ出向き、フィールドワークを実施した。お店が混んでいて約束した時間に入れない、アポを取ったお店が行きたいお店とは違う支店だった等、小さなトラブルは起きたが、地元の「今」を肌で感じることが出来た。

【熱海駅内ラスカでのインタビュー】

【熱海市役所でのインタビュー】

【魚市場でのインタビュー】

1/14(木)14:10～14:50,1/28(木)13:20～14:50　⑩⑪　発表準備

班ごとに発表準備を行った。発表方法、A4 用紙、模造紙、Keynote、PowerPoint のいずれかから好きなものを選択させた。全班統一して、まずは A4 用紙に発表計画を書かせるようにした上で、発表の型の例を伝えたことで、スムーズに準備を行うことが出来ていた。一方で、スマートフォンの写真を出力するのに苦労する班が多く出たこと、この時間内に準備が終わらない班が多く、空き時間を利用して準備を進めることになってしまったのが課題となった。

2/18(木)14:10～14:50,1/28(木)13:20～14:50　⑫⑬　発表会・熱海ラボに向けて

体育館にて発表会を行った。班の数分発表ブースを作り、３分×４回の発表を実施した。優秀な発表をした班に対しては、学年主任より表彰を行った。なお、運営は生徒が中心となって行った。

その後、体育館で２年生の熱海ラボの発表会を聞いた。先輩の発表を聞くことで、多くの者が、来年度やることのイメージを掴めた様子であった。

【パワーポイントでの発表】

【模造紙での発表】

取り組みの成果

①フィールドワークを通して、熱海という地域の魅力に気付いた様子であった。十分な事前指導が出来なかったにも関わらず、生徒たちは意欲的に質問をし、終了後は熱海の街中を回り、楽しんでいた。

②今回の熱高ラボでは、自ら課題を設定し、解決策を導き出すという活動を重視していた。こちらからテーマ例を出さなくても、自分たちでテーマを設定し、必要な情報を集めていたので、この活動は概ね出来ている様子であった。

③発表は、班ごとに工夫を凝らし、聞き手が飽きないよう配慮されたものであった。実際に、発表の時間中は笑い声や聞き手の反応が絶えず続いていた。

今後取り組むべきこと

①フィールドワークの早期実施

熱高ラボそのものは例年より早く始めていたが、発表準備そのものはフィールドワーク後となってしまったため、最終的には準備時間が足りなくなってしまっていた。できれば１学期終わりか２学期頭にはフィールドワークを実施できるようにしたい。

②準備時間の捻出

①にも関連するが、桃陵の時間で準備が終わらず、朝読書の時間に準備を進めることとなってしまった。授業内であと２時間程度準備ができれば完成するので、国語や情報などの教科とより強く連携し、計画的に準備が出来るようにしたい。

②後輩への引継ぎ

熱高ラボを初めて４年目となるが、過去の実施内容に関する資料が少ない。今年度の活動内容を次年度に引き継ぎ、来年度１年生の熱高ラボがより良いものとなるようにしたい。